



みんなで築こう子育て応援社会

少子対策・子育て支援フォーラム



▲有意義な意見が出されたパネルディスカッション

九月八日、三原公民館大ホールで「少子対策・子育て支援フォーラム」を開き、約六百人が参加しました。近年、晩婚化や未婚化が進み、核家族化や共働き家庭の増加で少子化が進んでいきます。そのため、少子化や子育てについて話しあい、地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりをめざして、開催しました。

最初に子育て応援シンボルを設立して、事業を展開します。

結婚促進に官民連携

縁結び事業推進協議会が発足

南あわじ市では、少子対策「結婚促進」を推進していくため、運営母体となる「南あわじ市縁結び事業推進協議会」（中田勝久会長）を設立しました。

八月二十日、第一回協議会で中田市長は、「人口減少が予想以上のスピードで進んでいる。若者の出会いの場が減少しており、官民が一丸となつて取り組まなくてはならない。多くの方のお力添えをお願いします」と出席者にあいさつしました。



▲第1回推進協議会

企業団地に三洋エナジー南淡㈱進出



▲今回購入があった南あわじ市企業団地の土地

このほど南あわじ市企業団地（榎列上幡多）に、二つの事業所が土地を新たに購入されました。

購入事業所は、三洋エナジー南淡㈱とマルショウ運輸㈱。同団地は、全体で二二・九ha。十二区画あり、三洋エナジー南淡㈱が購入する土地は約二・六haで、電池部品製造の新工場を建設予定です。またマルショウ運輸㈱は、現在団地内に約〇・四九ha所有しています。事業所拡張のため、その隣接地の約〇・六八haを購入されたものです。

「雇用の場」に期待

市はかねてから産業の振興と、少子化対策の一環でもある雇用促進のため、市の重要施策として企業誘致を進めています。

これまで同団地には、コープ神戸や北村電機㈱などが入っていますが、今後この二つの事業所進出により、さらに百二十人～百五十人程度の雇用が期待されます。

人と人が交流を通して学ぶ

じんけんフェスティバルin南あわじ

人権尊重の文化にあふれた差別のないまちづくりの実現に向け、八月二十六日、「平成十九年度じんけんフェスティバルin南あわじ」を、南あわじ市文化体育館で開催しました。今年は「みんながつてみんないい」をテーマに、共生社会の理解を深めてもらうための多彩な催しに、終日多くの人が参加し、賑わいました。

午前中は、歌手の野田淳子さんが柔らかな澄みきった声



▲野口淳子さん（左）によるコンサート

パネルディスカッションでは、子育て世代・母親代表の坂本佳子さん、子育てファミリーサポートくらぶの松坂美恵子さん、兵庫県男女共同参画社会づくり協定締結事業所の西島泰司さん、第一次産業後継者の伊吹智則さんと中

田市長、コーディネーターの清原氏が「みんなで支える子育て支援ネットワークづくり」のテーマで意見交換。それぞれの立場から取り組んでいる現状や、子育てについての要望が述べられました。

ハッピーマジック会員募集

～独身男女の交流の場～

- ◆活動例 スポーツやイベント、食事会などでの交流
- ◆対象者 独身男女（成人）で会則等を遵守していただける方

※ハッピーマジックとは…幸せな出会いは、理屈ではなく「ハッ！」とくるものがある。その不思議な力を多くの皆さんに呼び寄せたいという想い。

- ◆ハッピー応援団も募集中

（１）**おたすけ企業**（会社・団体）…独身男女に出会い・交流の場を提供したり、参加を促進したり、縁結びをサポートしていただく企業・事業所・団体です。登録の会社名・団体名を事業の広報活動で周知します。

（２）**おたすけ隊**（市民）…縁結びをサポートしていただく市民ボランティアです。事業の広報マンとして、会員募集やPR活動、イベントのお手伝いなどにご協力をお願いします。

- ◆申込み 市縁結び事業推進協議会事務局（少子対策課内） ☎ 44-3040

ふれあい市長室 高齢社会を迎え、生活公共交通手段の確立を！

南あわじ市長 中田勝久

収穫の秋を迎え、吹く風が心地よくなつてまいりましたが、夏バテにより体調を崩された方もあるのでは。どうぞご自愛ください。

現在、お年寄りや障害のある方が不自由なく市内を移動できるようコミュニティバスを試行導入し、実証試験として市全体の生活公共交通のあり方について検討しております。

らんらんバスの南淡線、三原線、せい太くんバスの西淡線についての現況ルート、停留所、便数、料金などの協議を重ね、淡路交通の在来線を視野に入れ、総合的な組立てを進めております。

また、三原線は、国より事業費の二分の一の補助金をいただき、実証試験を行っておりますが、本格稼働時には特別交付税での手当て並びに県補助金の財源を活用し、各種課題を解決しながら、市内の交通網を整備してまいります。

利用率が低いのではないかとこの意見もいただいておりますが、高齢化率が二十六％を越え、一人暮らしの方や車の運転がままならない方が急増するなか、交通安全対策や住みやすい街づくりが強く求められています。特に、通院や買い物、社会活動や市役所

への手続きなどに行かれる時、生活の足としての役割が今後、非常に重要になります。一方、常にご家族の方が仕事をしながら、送迎をされることは大きな負担になり、通学を含め、淡路交通との乗り継ぎや各集落の主要地点での乗降車位置を便利なものになければなりません。